

駅のエレベーター設置に向け前進



市議員
吉松 正憲

みなさんとすすめた2回にわたるエレベーター設置を求める要望署名や議会での質問が力になりました。



京阪電鉄への申入れ



大和田駅を調査

市内京阪電車5駅のうち、門真市駅以外はエレベーターが設置されていませんが、新年度ようやく、大和田駅・古川橋駅（のいずれか、あるいは2駅）を対象にエレベーター設置の前提となる基本構想策定を予算化。日本共産党と市議員団は、緊急度の高いエレベーター設置の運動にねばりよく取り組んできました。私も、この2年間でも3回、本会議で取り上げ、また地域の党支部や市民団体のみなさんとバリアフリー化の運動に取り組み、市長や京阪電鉄に実現を働きかけてきました。萱島駅についても、すでに寝屋川市で基本構想が策定されており、今後エレベーター設置に向け引き続き取り組んでいく決意です。

「市内で唯一の貴重な自然、北島の市街化調整区域残せ」

建設常任委員会では、府道寝屋川大東線街路・沿道整備問題（2面）や京阪電車各駅前の放置自転車対策、また、市街化調整区域土地利用基本構想作成などについてとりあげました。

とりわけ北島調整区域は、「水郷や自然の葦、数十種の野鳥が飛来する貴重なオアシスであり、旧門真南高校施設の活用と一体のものとして、可能な限り守るべきだ」と市民の共有の財産として適切に保全することを求めました。

「やった！扇風機がつくぞ」
夏の暑さ対策、運動実る

教室の温度が35度を超える？「待ったなしで解決すべきではないのか」と夏の暑さ対策を（四條畷市での調査）求めてきましたが、子どもたちや保護者の願いが実現することになりました。第2京阪道路対策の一環として、エアコンが設置される北巣本小学校など4小中学校を除く19小・中学校の教室に、当面の暑さ対策として、扇風機・天井扇が設置されます。私も党議員団とともに、市内の小・中学校や扇風機を設置した寝屋川市・四條畷市の調査もおこない、議会での発言を含めて、強く働きかけてきました。



四條畷市の調査

住民投票で9割が反対した合併問題に 東市長は居直る

合併問題反省せず 市民に相談なしの行革推進へ

3月議会が終了し、新年度の予算が成立しました。

守口市との合併が白紙となって以降はじめての3月議会は、合併問題をどのように教訓とし、今後の市政運営に生かしていくかが鋭く問われていました。この立場から、共産党議員団は東市長に代表質問で「合併問題がなぜ市民に理解を得られなかったと考えているのか」と質しました。

これに対し東市長は「私も半分ぐらいわかっておらない」「私の考えは間違っていない」と居直りました。住民投票で約9割が反対した合併問題について

「間違っていないかった」などという答弁は市民を全く馬鹿にしたものです。



市民サービスに
密接な行革計画の策定に

説明会なし
意見聴取なし

いま、地方自治体は厳しい財政状況となっています。市民サービスを維持していくための行財政改革は待ったなしの課題です。その計画の策定は市民サービスと密接な関わりがあることから、市民への説明を十分行い、意見を聞き反映させることが大切です。

しかし、今議会のなかでも、市民への説明会を行わず、意見も聞かないという態度に終止しています。また、行財政改革について市に提言を行う「行財政改革推進懇話会」での議論も「非公開」とするなど、市民に相談なしの行革を強行しようとしています。合併問題と同様に市民不在の姿勢は許せません。



議会への十分な説明もなく都市再生として、上島地区を事業化

今後の市のかかわりや財政負担もまったく不透明なまま推進



3月議会では、国の都市再生事業の重点地区に指定されている都市計画道路府道寝屋川大東線沿道整備の一環として、その一部を上島第1地区として整備しようとしている問題を取り上げ、今後の市のかかわりや財政負担も不透明なまま事業を推進しようとの市の姿勢が浮彫りになりました。

沿道整備の元となる寝屋川大東線街路事業の全体計画と総事業費について、「幅32メートル、事業延長1キロメートル、総事業費11億2千万円」だと知りながら、本会議でも、建設委員会でも質問に答えず、議会軽視の姿勢が浮き彫りになりました。結局さいごは、市当局が説明をおこたったことに対して、東市長が陳謝せざるを得ませんでした。府道の拡幅・街路整備で、現道を4倍に拡げることが府の都市計画で決められていますが、住宅が密集したこの地域で、莫大なお金をかけてやる必要があるのでしょうか。

負担増やサービスの質の低下が…

◆施設改善もなく学童保育を有料化

学童保育は、プレハブで、トイレも遠いなど劣悪な状況ですが、今回、何ら施設改善もなく1ヶ月3500円徴収するとしています。

◆中学校給食6校分の民間委託の継続

学校給食は、子供たちの心身ともに豊かな発達に重要な役割を果たしていますが、新年度も利潤を追求する民間の給食会社に委託しています。

◆国保収納体制の強化

高い保険料こそ問題なのに、新たに保険料徴収にたずさわる職員を2名採用し、収納体制を強化しています。

公明党提出の「議員定数削減条例」上程せず

3月議会では、議員定数を28から18に削減する条例案が提出されました。

日本共産党は、市民の多様な意見を議会を通じて市政に反映するため、また、すでに法定数から6削減されており、これ以上減らすべきではなく、議員歳費を削減するなど対処すべきだと反対しました。公明党以外の会派も「慎重に検討すべきだ」と本会議への上程は見送られました。

扇風機設置など市民の切実な要望実現

市民の切実な願いと運動が市政をグーッと動かす

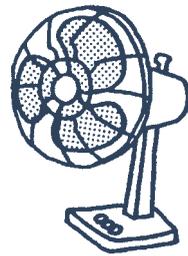
門真南高校跡地活用は市民の声を尊重すべき

3月の議会で、門真南高校跡地と南小学校跡地を交換し、門真市が1億6700万円の交換差額を負担する形で、大阪府と基本合意したとの報告がありました。門真南高校跡地の活用にあたっては、十分に市民の意見を聞き、市民のための施設となるようすべきです。

学校施設改善・安全対策

①学校教室に扇風機を

保護者・子どもの切実な要望であるの暑さ対策について、党議員団は99年から繰り返し求めてきました。今回、エアコンが設置される北巢本小・沖小・第2中(以上05年度)・浜町小(06年度)を除き、すべての小・中学校の普通教室と特別教室に、天井扇が2基設置されることになりました。



②全小学校に警備員配置

寝屋川市の小学校での殺傷事件を受けて、大阪府の補助金も活用し全小学校に警備員が配置されることになりました。

駅のエレベーター設置につながる交通バリアフリー基本構想策定

高川橋駅・大和田駅には、エレベーターがなく障害者・高

齢者などから要望が寄せられていました。日本共産党は、昨年12月エレベーター設置を求める署名を集め、市長と京阪電車に提出しました。今回、駅舎周辺のバリアフリー化や駅におけるエレベーター設置のために交通バリアフリー法に基づく基本構想を策定するものです。

街角デイハウスの実施

高齢者が住みなれた地域で、いつまでも自立した生活ができるよう食事やレクリエーションなどを行うサービスです。すでに大阪府下では、125ヶ所開設されています。

公立保育園の充実

①保育時間の延長

働く女性の増えている中、時間延長は長年の要望となっていました。今回、2園で、6時30分までとなっていた保育時間が7時までの延長(試行)となりました。

②医務室にエアコン設置

子供の具合が悪いのに、エアコンもない部屋で寝かせるなんてとんでもないことです。今回ようやく公立保育園7園の医務室にクーラーが設置されることになりました。

乳がん健診・マンモグラフィ実現

乳がんの早期発見につながるマンモグラフィ(乳房のレントゲン撮影)が、ガン検診に導入されます。(利用は1年おき)

